



境界を超えて皆で共に歩んだ
私たちの3年間におめでとう！

경계를 넘어 함께 걸어온
우리의 모든 날들, 3주년을 축하해!



筑波大学
University of Tsukuba



151

創基151年
筑波大学50周年記念
50TH ANNIVERSARY OF
UNIVERSITY OF TSUKUBA

令和6年12月26日

筑波大学令和6年度日韓青少年対話型交流事業委員会

創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業 令和6年度日韓青少年対話型交流事業 統合報告書

外務省, 日本政府観光局, 独立行政法人国際交流基金, 独立行政法人国立青少年教育振興機構, 独立行政法人日本学生支援機構
茨城県, 茨城県教育委員会, つくば市, つくば市教育委員会, 駐日韓国大使館 韓国文化院, 韓国国際交流財団, 江原特別自治道 東京本部
済州観光公社, 東京韓国教育院, 神奈川韓国総合教育院, 大阪韓国教育院, 埼玉韓国教育院, 公益財団法人日韓文化交流基金, 公益財団法人日本国際教育支援協会
公益財団法人東京観光財団, 一般財団法人自治体国際化協会, 一般社団法人日韓経済協会, 公益財団法人日本国際交流センター, 一般社団法人茗溪会（筑波大学同窓会）
一般財団法人日本アジア振興財団, 公益財団法人茨城県国際交流協会, 一般財団法人つくば市国際交流協会, 株式会社 KT Japan, 株式会社茨城新聞社



CONTENTS

1	ごあいさつ	P.04
2	数字で見る成長と実績	P.05
3	報道実績	P.06
4	ブランドアイデンティティ	P.07
5	事業を通じた価値創造	P.08
6	探求型国際交流プログラム	P.09
7	成長戦略	P.16
8	ESG運営	P.19

公益財団法人日韓文化交流基金 令和6年度人物交流助成事業

日韓みらい ファクトリーフォーラム 参加者募集

韓国の学生と
対面で
交流したい人！

3泊4日の充実した
プログラム！

探究と文化交流が融合したチーム活動！日韓交流の主人公はあなた！

申し込み&日程

5月14日(火)開始
上記のQRコードから
参加者フォームにアクセス

6月12日(水)
7月5日(金)
参加申込書提出

6月19日(水)
7月12日(金)
参加者決定通知

7月20日(土)
初回オリエンテーション
の参加

活動内容

- 募集期間 令和6年 5月14日～7月5日
- 1次募集 令和6年 5月14日～6月12日
→ 1次参加者決定発表 6月19日(水)
- 2次募集 令和6年 6月13日～7月5日
→ 2次参加者決定発表 7月12日(金)
- 募集人数 40名
(※該日曜へい韓国学生も40名)
- 参加費用 無料(航空券を含む交通費は個人負担)
- 活動場所 筑波大学 東京キャンパス文京校舎
- 宿泊場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 参加条件 ① 令和6年度時点において日本の大学もしくは高校に在籍していること(国籍不問)
② 事前研修、対面研修(合宿)及び事後研修の全日程に参加できること
③ 韓国語での簡単な日常会話ができるものが望ましいが、必須事項ではない

※ 1次募集にて多数のご応募をいただいた場合、2次募集を中止する場合がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ先
筑波大学 令和6年度日韓青少年対話型交流事業委員会事務局
電話番号:029-853-2222
メール:office_jkep@u.tsukuba.ac.jp

筑波大学
University of Tsukuba

創設151年
創立151周年記念事業

図1：ポスターイメージ日本語版

本冊子は本事業・プログラムの成果や課題点、財務状況について報告し、統合的かつ簡潔にまとめることにより、本事業・プログラムの価値創造への取組みを幅広いステークホルダーの皆さまにお伝えし、より深い対話へとつなげるツールとすることを目ざしています。報告対象期間は令和6年1月1日*～令和6年12月31日です。最新状況や、時系列を追って記載をする必要とするものに関しては、対象期間以外の活動や取組み内容についても掲載しています。編集は主催者の指揮の下、主管事務局が制作を進めました。将来の見通しについては発行時点のものとなっておりますので予めご了承ください。 *令和6年1月1日～3月31日までは前号との重複期間です。

1 ごあいさつ

こんにちは。創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業、令和6年度日韓青少年対話型交流事業、事業運営責任者の寶積應公でございます。令和4年に駐横浜大韓民国総領事館の支援のもと事業を開始した私たちは、今年皆様のおかげで3周年を迎えることができました。参加者様や支援機関様をはじめとする全ての関係者の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

私たちはこれまで「日韓の未来を担うグローバル人材の育成を通じて両国交流の発展に貢献する」というミッションを一貫して掲げて取り組んでまいりました。ありがたい姿として「境界を超えて皆で共に創る新しい日韓交流空間」ビジョンを宣言し、若い世代こそが主人公であるものの、産官学連携を通じて、特別講演・ワークを共同で開発する「共創」プログラムを積極的に推進し、若い世代を支え、共に創るプログラムを実現しました。

これから、「境界を超えて皆で共に創る新しい日韓交流空間」ビジョン2.0を始動させます。ビジョン2.0では、日韓の現在と未来を担う人々、そしてこれから担うであろう人々が、世代を超えて交わり合い、主体的な存在となり、成長し続けられる空間へとアップデートします。言語学習や文化体験など様々な入口から、観光、留学、青少年交流、市民交流への接続することで、人々の交流をさらに流動化させ、「持続可能な日韓交流空間の生態系」の構築を目指します。

核心価値であるアントレプレナーシップ教育、異文化コミュニケーション、そして観光・文化体験等、人的交流を組み合わせた「探求型国際交流プログラム」は、これから、国際交流にとどまらない国際的な共修を実現することで社会課題を解決し、ソーシャル・インパクトを創出できるプログラムへと進化していく予定です。

ますます進化し続ける「境界を超えて皆で共に創る新しい日韓交流空間」ビジョン2.0にどうぞご期待ください。



創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業
令和6年度日韓青少年対話型交流事業
事業運営責任者 寶積 應公（社会・国際学群 社会学類）

2 数字で見る成長と実績



図2：基本データ

*韓国側の参加者の高い関心を集めています。韓国では全国から予想を上回る応募があり、招へい定数を40名から60名に増員しました。参加者数の増加は当初懸念点ではありましたが、より多くの韓国の学生に日本を肌で感じていただく機会をなり、全体としては評価できます。

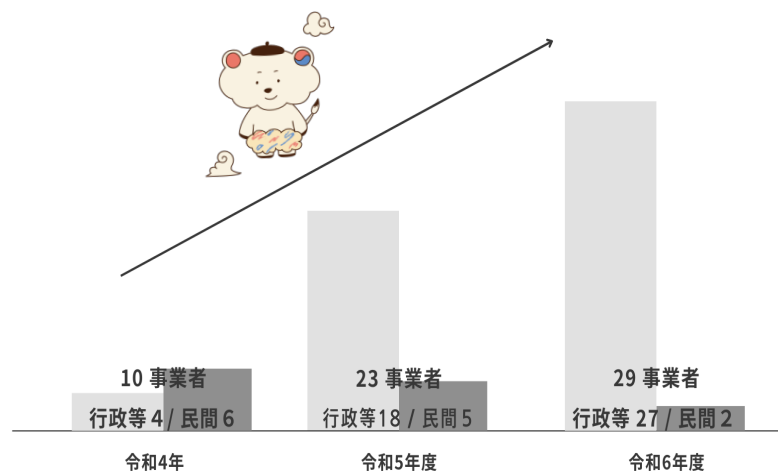


図3：産官学連携実績の推移

*行政機関や公益団体等の連携実績に成長が見られる一方で、民間企業との連携実績は縮小していますが、これは本学の利益相反・輸出管理等マネジメント等の観点から、民間企業との連携に関する見直しを行なったことによるものであり、特定の要因に起因するものではありません。

3 報道実績

文化体育観光部 国際文化広報政策室 | 2024年8月26日
韓国文化院で集まった韓日学生たち、韓日みらいファクトリーフォーラム2024開催
<https://www.kocis.go.kr/kocc/view.do?seq=1049201&page=1&pageSize=10&photoPageSize=6&totalCount=0&searchType=menu0023&searchText=&searchCondition=1&ctrCode=CTR0003>

駐日韓国文化院 | 2024年8月26日
韓日みらいファクトリーフォーラム2024～韓国文化院訪問
日本語：
<https://www.koreanculture.jp/infophotoview.php?cate=&page=1&number=1732&keyfield=&key=>
韓国語：
<https://www.koreanculture.jp/korean/infophotoview.php?page=1&number=1733>

聯合ニュース | 2024年8月22日（報道地域：韓国）
駐日韓国文化院、みらいファクトリーフォーラム 学生対象体験行事
<https://yna.co.kr/view/AKR20240822157100073?section=se-arch/news>

世界日報 | 2024年8月22日（報道地域：韓国）
駐日韓国文化院訪問 韓日青年「両国交流の架け橋になる」
<https://www.segye.com/newsView/20240822516348?OutUrl=naver>

毎日経済 | 2024年8月22日（報道地域：韓国・日本）
友情で明らかにした韓日学生たち 駐日韓国文化院で両国文化交流行事
韓国：<https://www.mk.co.kr/news/world/11098944>
日本：<https://www.mk.co.kr/jp/world/11098944>

Daily News Japan | 2024年8月22日（報道地域：日本）
駐日韓国文化院に集まった韓日学生たち、日韓みらいファクトリーフォーラム2024開催
<https://dailynews.jp/archives/2940>

EduKorea News by Financial News Japan | 2024年8月22日（報道地域：日本）
駐日韓国文化院に集まった韓日学生たち明るくてあふれるような笑いで
<https://edukorea.news/archives/931>

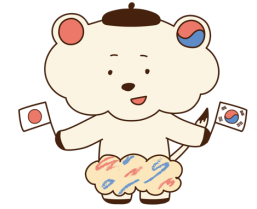
統一日報 | 2024年9月17日（報道地域：日本）
韓日の青少年交流事業 オンラインで活動報告会
<http://news.onekoreanews.net/detail.php?number=92903&thead=01r04>

<下記2件についても記事中で、本学行事に言及されています。>
統一日報 | 2024年9月10日（報道地域：日本）
多彩な参加型イベント 日韓文化交流基金が開催
<http://news.onekoreanews.net/detail.php?number=92869&thead=01r04>

統一日報 | 2024年10月16日（報道地域：日本）
「10月マダン」各地で盛況 地域に根付いた韓日交流
<http://news.onekoreanews.net/detail.php?number=93013&thead=04>



4 ブランドアイデンティティ



ミッション・ステイトメント

日韓の未来を担うグローバル人財を育成し、
持続可能な両国交流の発展に貢献します。

ビジョン・ステイトメント

境界を超えて、皆で共につくる
新しい日韓交流空間（プラットフォーム）

5 事業を通じた価値創造

私たちは「境界を超えて皆で共につくる新しい日韓交流空間ビジョン」を達成するために2つの価値創造を行っています。

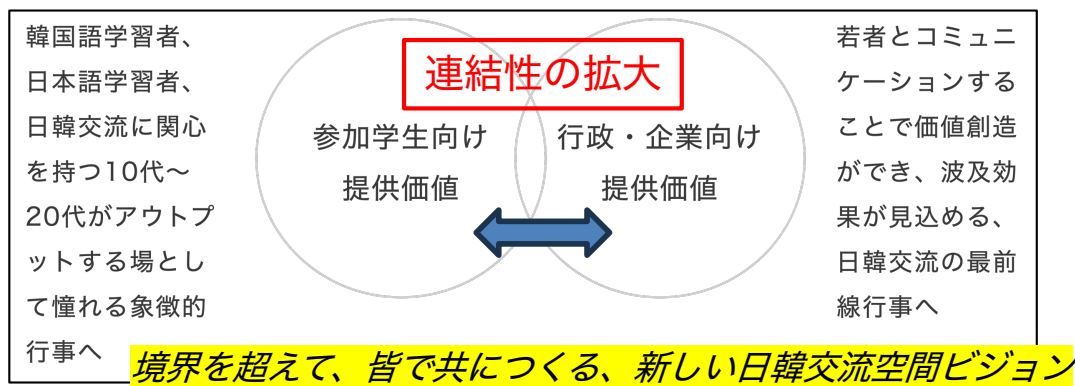
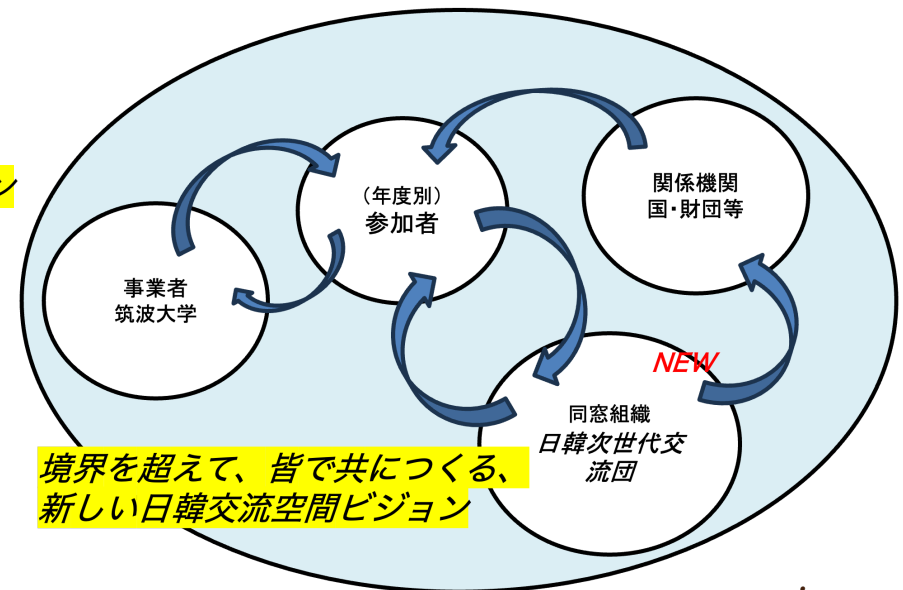


図4：価値の連結性の拡大・マッチング

参加者向け価値と支援者向け価値の連結性の拡大・マッチングにより創出するビジョンモデル。

図5：包括的なビジョン達成に向けたあるべき姿

あらゆるステイクホルダーとのコミュニケーション、人財の流動による創出するビジョンモデル。



<包括的なビジョン達成に向けたあるべき姿>



6 探求型国際交流プログラム

対面研修の様子を
動画で見る！



Full ver.



Shorts ver.

6-1 コンセプト

私たちは、アントレプレナシップ教育と異文化コミュニケーション、そして文化体験や観光等の人的交流を導入した新しい国際交流の共修モデル・スタンダード「探究型国際交流プログラム」の提供を通じて、ミッション&ビジョンの実現を目指します。

本プログラムの目指す人財育成像

日韓の将来を担うグローバル人財とはグローバル人財とは、「日韓の文化を理解し双方の文化に対応することができる人財」と定義しています。異なる背景を持つ人々が出会い、交流する過程において、参加者が当該国際交流の主体となることを目的とし、プログラム中の仕掛け（共同作業、議論、文化体験）を通じて、参加学生が異文化対応力を身につけることを期待しています。

最終的に異文化に対する理解を高め、柔軟な思考や行動達成することを目指すものであり、日韓を舞台に、自身と異なる新しい価値観や考え方を理解できる人財を増やします。



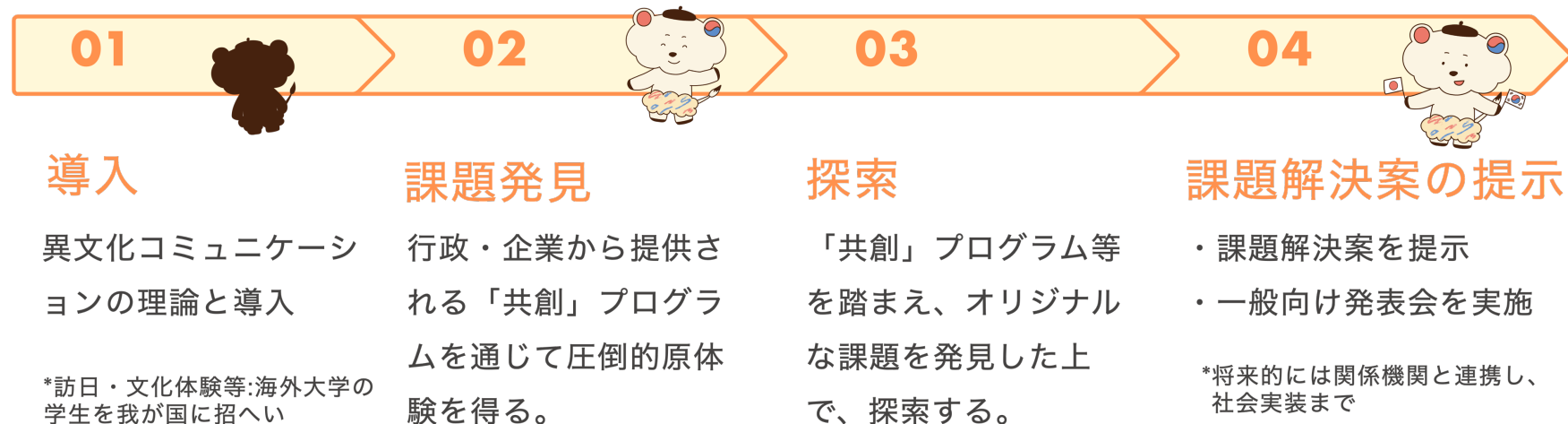
図6：プログラムコンセプト

6-2 フレームワーク

＜アントレプレナーシップ監修＞
西野 由高 教授（国際産学連携本部）
野村 豪 助教（国際産学連携本部）

CCPP (Cross-cultural Communication Program with Project-Based Learning)

SDGsの視点から、日韓に共通する課題に着目し、探索（課題発見）した上で、それらを解決するアイデアを考える活動をプログラム全体を通じて実施します。



国際的な共修を実現するプログラム
日本の学生と韓国の学生がチームを組んで取り組みます。

6-3 産官学連携によって実現した共創プログラム



韓国国際交流財団

韓国国際交流財団の展開する国民が主体となる公共外交とは何かについてその理論と事例について学びました。政府間における外交とは異なる市民間の疎通の必要性や重要性について「私が公共外交を担うなら？」というテーマでグループワークを行い、学びを深めました。



自治体国際化協会

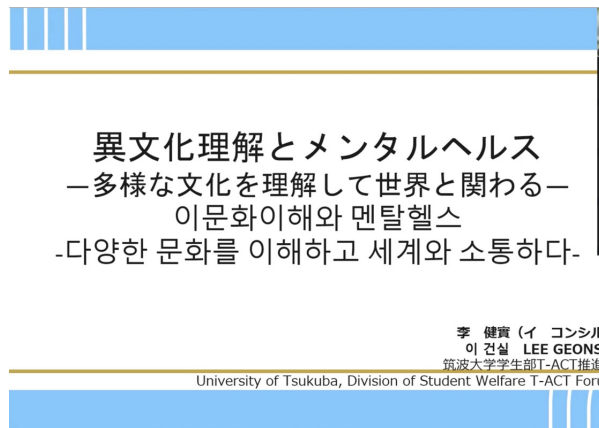
自治体国際化協会が展開する日本の地方自治体の国際化戦略の取り組みについて概観し、日韓における地方自治体間交流や地方創生（経済、観光資源、多文化共生等）に関して理解を深めました。また、実際にチーム活動とは異なるメンバーと一緒に「私が地方自治体の国際化を推進するなら？」というテーマでグループワークも行い、理解を深めました。



駐日韓国大使館 韓国文化院

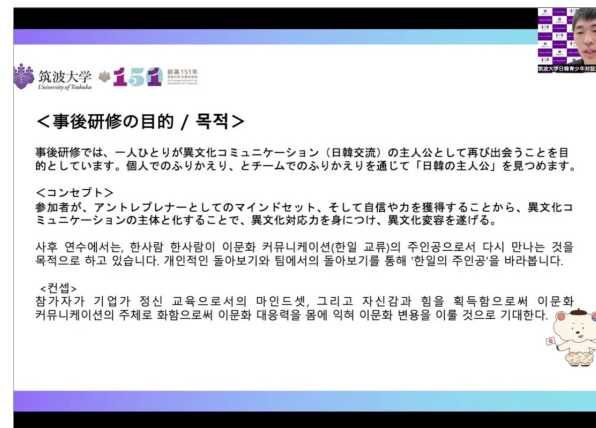
駐日韓国文化院への表敬訪問では、韓国文化院が日本で展開する施策や役割について概観しました。館内の自由見学では訪日参加学生のアテンドで国内学生とともに韓国文化を体験しました。在外公館への表敬訪問は本行事だからこそ実現できるものであり駐日韓国文化院と連携を象徴するものとなりました。

6-4 事前研修及び事後研修・活動報告会



事前研修

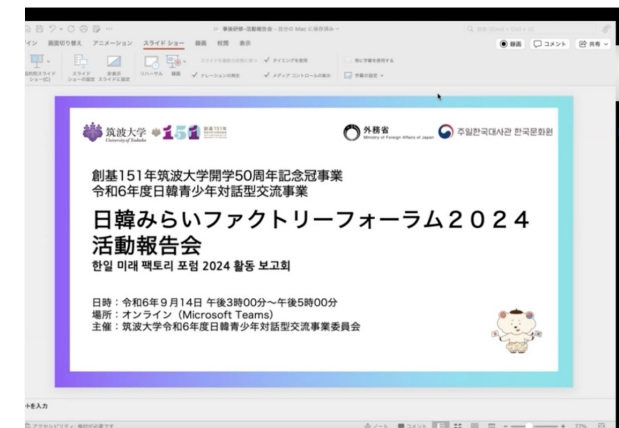
李 健實 助教（筑波大学T-ACT推進室）より、異文化間において有効なコミュニケーション方法に関する理論と実践について講義いただきました。対面研修時、国内参加者と訪日参加者が混合チームを作って活動を行うことを見据えて、具体的な理論を学び、身近な話題（自己紹介）を用いて導入実践を実施しました。



事後研修

事後研修はプログラムを通じた成長について振り返ることを目的に実施しました。

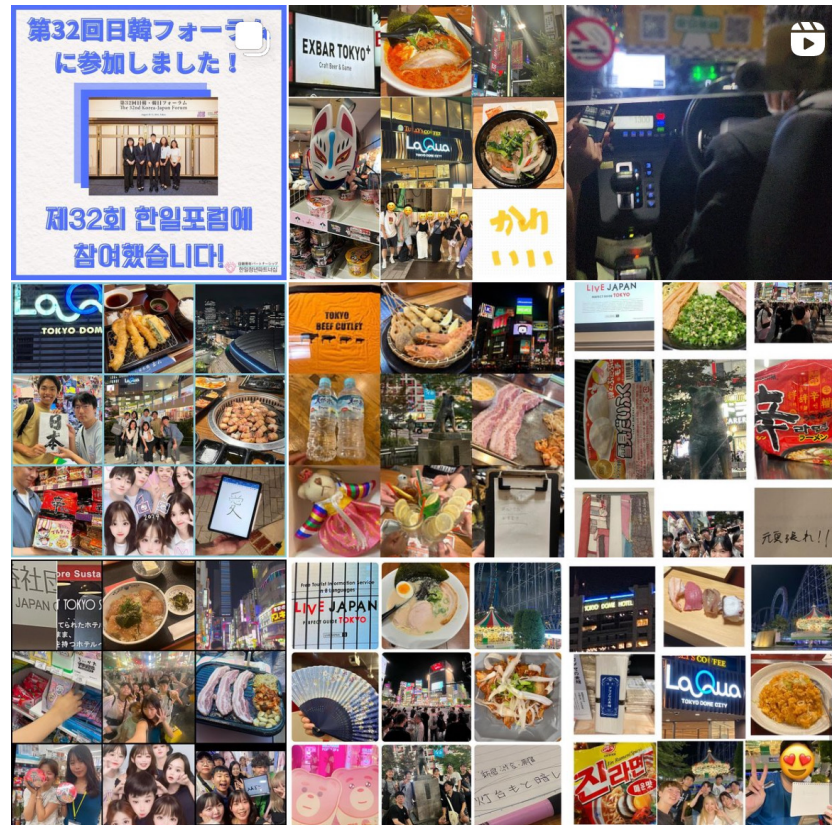
個人での振り返りでは、自分が記入した各回後実施後の質問調査を閲覧し分析しました。さらに、チームでの振り返りでは、事前研修からを振り返り、異文化間において有効なコミュニケーションを理解し実践することができたかどうかについてメンバーと確認しました。



活動報告会

活動報告会では、日韓交流の主人公である、参加した学生たちがプレゼンターとなり、本プログラムで活動した成果について、一般の方、及び関係者（次年度本プログラムに参加したい方、保護者様、国際交流に携わる学校関係者、行政の方）に向けて発表しました。活動の成果発表と質疑応答を通じて一般の方と疎通することができました。

6-5 Hack Tokyo (東京観光ミッション)



@miraefactory.jp

訪日招へい参加者と国内参加者が一緒に東京の街をめぐることで、通常の観光とは一味違う体験してほしいという思いから実施しました。

チームは指定の範囲から観光エリアを選択し、その中から記載されているミッションに取り組めます。ミッション達成の報告・確認は韓国式「認証ショット」という文化を取り入れ、SNSへの投稿で行いました。ミッションの達成は「TOKYOをより多くハックした」ことを意味し、チーム活動の評価に得点を加算しました。

このアクティビティは参加者同士の親睦を深めると同時に我が国の様々な魅力を知らせ、対日理解の向上に寄与しました。

6-6 参加者の感想

訪日参加者

グループ発表を作成しながら韓国と日本の社会問題について考えた時、日韓が現在直面している社会問題が非常に似ているという点が特に印象深かったです。今回の活動を通して、日韓関係および両国の社会問題について多様な視点に触れることができ、それによって日韓関係に対する理解の幅が広がりました。特に、日韓両国の問題においては、対立の解決よりも未来志向のアプローチが重要だということに気づきました。

国内参加者

特に印象的だったのは、韓国人学生と東京の街を巡ったことです。Hack Tokyoという観光ミッションでは、自分だけでは訪れなかったかもしれない場所にも足を運ぶ機会がありました。このミッションのおかげで、東京のさまざまな観光地を訪れることができ、とても新鮮な気持ちで臨めました。観光の中では、韓国人学生が韓国の街並みや雰囲気との共通点や相違点について話してくれたことで、私たち自身も韓国との違いを楽しく知ることができました。自分の意見に自信を持ち、積極的に共有しようとする姿勢が身につきました。というのも、韓国人学生たちが議論の中で次々と自分の考えを述べ、意欲的に話し合いを進めていく様子に大いに刺激を受けたからです。それまでは少し遠慮がちだった私も、その姿に触発され、自分の意見をしっかりと伝える重要性を実感しました。この経験により、議論に積極的に関わることができるようになりました。また、異文化理解の大切さを実感し、これまで以上に相手の価値観を尊重するコミュニケーションを心がけられるようになりました。

訪日参加者

最初は日本語をうまく話せるか心配でしたが、その心配が無意味に感じるほど友達がよく理解してくれてありがたかったです。そのおかげで、言語で自分の気持ちを伝えることも重要ですが、最も大切なのは心そのものだということに気づきました。また、自信を持って日本語を話せるようになり、このような自分の考えを他の人たちにも伝えたいと思いました。

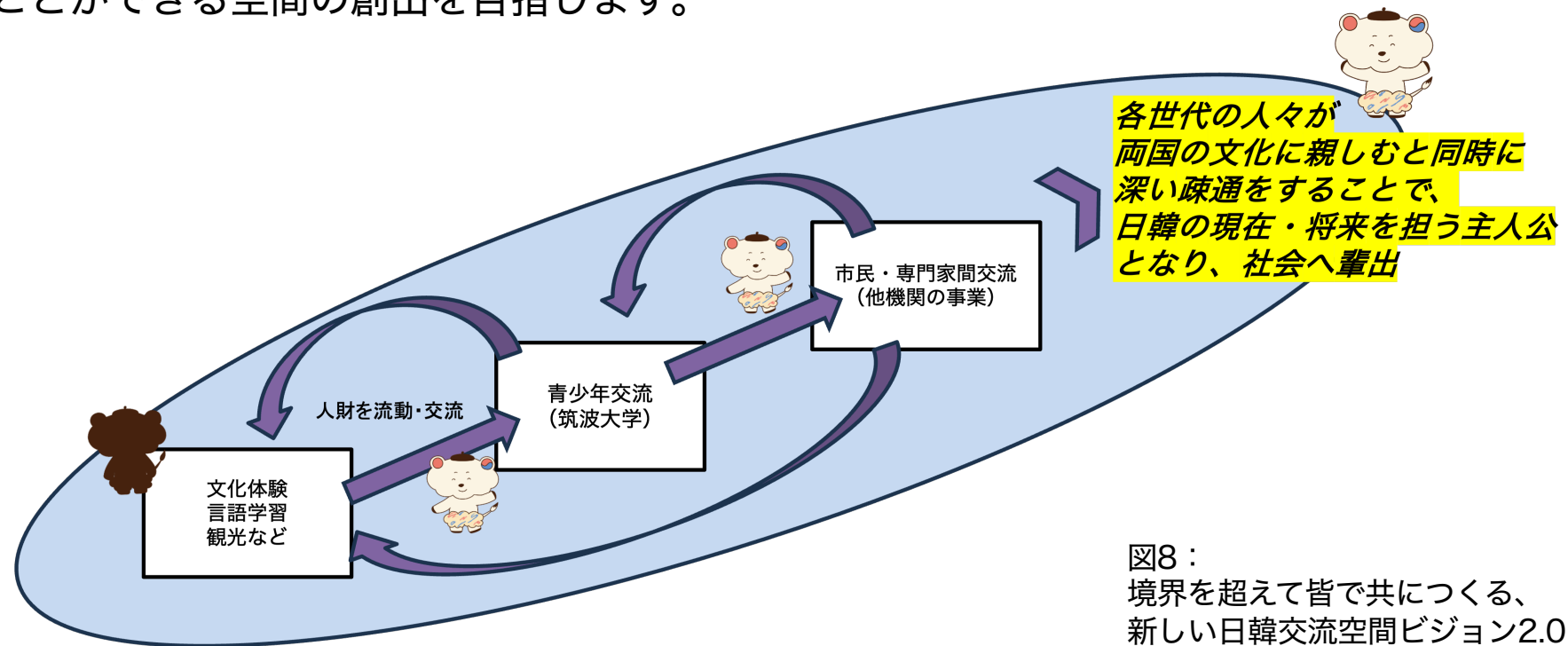
7 成長戦略

ビジョン2.0
動画で見る！



7-1 ビジョン2.0 持続可能な日韓交流空間の生態系

「境界を超えて皆で共につくる、新しい日韓交流空間ビジョン2.0」では、青少年交流のみに留まらず、市民交流、専門家交流をはじめとする縦と横の交流との連携を加速させます。また、日本・韓国との出会いは一人一人異なります。今後はプログラムを飛び出し、文化体験や言語学習、観光との接独を強化するために関連機関との連携を強化します。両国の人々が各自の関心に応じて段階的な交流と出会い、継続的に学びを深化させることができる空間の創出を目指します。



7-2 運営体制の見直し

令和7年度事業より、事業の主管を筑波大学から本学の関連団体であり行政機関や民間企業等によって設置される研究機関「つくばグローバル・イノベーション推進機構（TGI）」に変更することを検討しています。これまでの大学の運営から独立することにより、事業運営の効率化、サービス品質の向上、産官学連携のさらなる連携の強化を目指します。また、公的資金に依存することない民間資金を活用した事業の運営に取り組みます。今回の事業主体の変更により、これまで国立大学法人法や大学規則などにより制限を受けていた事項についても積極的に検討、実施することが可能になり、事業の一層の成長を見込んでいます。

筑波大学との教育・研究等に関する連携は継続することを前提としており、これまで企画と運営を筑波大学で一括で行なっていましたが、今後は学術的指導及び監修（筑波大学）と運営（TGI）を分離し、それぞれの強みを最大限活かした事業を展開してまいります。

<移管先の法人について>

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

政府の「つくば国際戦略総合特区」として筑波研究学園都市が指定を受けたことに伴い、関連事業を推進する母体として、茨城県、つくば市、筑波大学等を中心に2011年に設立された研究機関。

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-5-1 つくば市産業振興センター2階

TEL: 029-869-8030 FAX: 029-869-8031

HP: <https://tsukuba-gi.jp> E-mail: tgi@un.tsukuba.ac.jp



8 ESG運営

ESG運営
がんばりました💪



8-1 基本指針

TEAM
EXPO
2025

本事業は
2025年大阪・関西万博
共創チャレンジです。

筑波大学は、2022年4月1日「DESIGN THE FUTURE機構」を新たに設置しました。
本機構は、現在および未来社会がかかえる地球規模課題解決のために、国連が設定した持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）やそれに継ぐBeyond SDGsに対し、本学がどのように貢献できるかを探索し、人と地球の健全な未来の構築を目指します。
本事業も本学が推進するSDGs行動の一環であり、DESIGN THE FUTURE機構ウェブサイトに掲載されています。



私たちは事業を通じて、特に次の4項目にコミットすることを宣言しています。

- 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
- 10「人や国の不平等をなくそう」
- 16「平和と公正を全ての人に」
- 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

また、2025年大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」と関連し「人々とのアイデア交換、未来社会を「共創」(co-create)」することができる空間としてのアワードの実現にも積極的に取り組んでまいります。

もっと見る！



8-2 具体的な取り組み（E&G）

E

人間と自然の調和のために努力します。
例えば、リサイクル紙の利用など、事業運営にかかわる活動を「エコ」にしています。

印刷量の削減、郵送取り止め

公募広報担当では、全国の高校や大学等に配布するチラシを従来は印刷し郵送していましたが原則として電子メールでの周知に変更しました。

設備の再利用・節電

運営支援担当では、昨年度使用したアメニティを再活用しました。また対面研修会場やオフィスにおける節電に取り組みました。

G

利害関係者様との公正な取引の実現、参加者様が安心して活動できるプログラムの実現に向けて、本学担当部局の指導の下、大学規則を遵守し事業運営規則を策定・運用します。

参加者の安全のため保険に加入

参加者の活動中の安全を確保するために事務局では一括で保険に加入しました。

組織運営と法令及び規則遵守

応募規約や参加規約の策定、関係する学内規則を遵守し、事業運営が問題なく行われているかを第三の視点を導入して確認しました。

もっと見る！



8-3 具体的な取り組み (S)

S

社会的価値創出を最優先に考え、公益事業としての使命と自負心を持って、未来世代の人材育成に最善を尽くしてまいります。

第32回日韓フォーラム

産官学連携担当では、第32回日韓フォーラム及び同フォーラムジュニアフォーラムに参加し、本学の取り組み等について発表しました。



2024年つくば市・大田市青少年科学技術交流事業

産官学連携担当では、2024年つくば市・大田市青少年科学技術交流事業に通訳として参加し、両市の中学生の交流を支援しました。



8-4 具体的な取り組み（最新）

日韓次世代交流団が発足し活動を開始



日韓次世代交流団は、本学主催の日韓交流事業を修了した学生（社会人）を対象とした同窓組織です。今後将来の日韓関係を担う同窓生の皆様が、参加年度を超えて交流を深めることはもちろん、同窓生と関係機関等が所属や世代の枠を超えてコミュニケーションすることが目指しております。日韓次世代交流団が、「日韓未来の主人公集団」となり、社会に新たな価値を創出していくことができるように支援しています。

詳しくは日韓次世代交流団のウェブサイトでご紹介しております。



もっと見る！





集合写真



オープニングセレモニー



ウェルカムカフェ



記念品プレゼント



アイデア発表



駐日韓国文化院



筑波大学は、日本初の高等教育機関として1872年に設立された師範学校を前身とし、1973年に開学しました。学際性と国際性を備えた「開かれた大学」を基本的な性格として、社会の変化に不断に対応していくことを「建学の理念」に掲げています。人文・社会、理工・情報・生命環境、医学、体育、芸術など国内随一の幅広い分野を有する研究大学として、研究・教育の両面で、世界中の大学や研究機関と協力しています。これまでにノーベル賞受賞者を3名輩出するなど、多くの著名な研究者が活躍しています。2022年には国から「指定国立大学」の指定を受け、地球規模の課題解決に向け、未来創造への冒険と挑戦を推進しています。

本事業は、公益財団法人日韓文化交流基金 令和6年度人物交流助成事業、韓国国際交流財団（KF）2024年度韓日交流支援事業、及び一般社団法人茗溪会（筑波大学等同窓会）令和6年度学生活動支援事業として開催されました。

創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業 令和6年度日韓青少年対話型交流事業 統合報告書

発行者：筑波大学令和6年度日韓青少年対話型交流事業委員会
編集者：筑波大学日韓青少年対話型交流事業事務局

TEL : 029-853-2222

E-mail : office_jkep@u.tsukuba.ac.jp

<https://miraefactory.jp/>

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 第一エリア D 棟 3 階

収支報告書

予算決定 令和6年01月31日
補正予算決定 令和6年07月17日
決算確定(修正) 令和6年12月25日

日本語/Japanese

事業名:創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業 令和6年度日韓青少年対話型交流事業
主催者名:筑波大学令和6年度日韓青少年対話型交流事業委員会

事業運営責任者 寶積 應公
チーム長(財務担当) 松村 陽和
(公印省略)

本事業の収支状況について、次のとおり計上しております。
実際の業務推進によって予算計画から一部変更が生じています。予めご了承ください。
※金額表示単位:円/JPY

収入の部

項目	金額	積算内訳	充当予算区分	出資比率
公益財団法人日韓文化交流基金	500,000	令和6年度人物交流助成事業	A	50%
韓国国際交流財団	300,000	2024年度韓日交流支援事業	B	30%
一般社団法人茗溪会(筑波大学等同窓会)	78,000	令和6年度学生活動支援事業	C	8%
寶積 應公	126,914	一般寄附	D	13%
合計	1,004,914			

支出の部

項目	金額	積算内訳	充当予算区分	内訳金額
広告宣伝費	67,504	ウェブサイト運営費	C	34,948
		マーケティング・SNS等運用費	C	32,556
開催費	688,859	会場借用費(宿泊施設/国内参加者)	B	276,470
		会場借用費(宿泊施設/訪日参加者)	A	306,870
		会場借用費(事前研修/オンライン:Zoom)	A	2,639
		ノベルティ制作費	D	54,373
		自動通訳費(ポケットク)	A	3,300
		運搬費(郵便・宅配)	B	5,490
		国内旅行保険費(国内参加者向け)	B	19,475
		1日目懇親会費(ウェルカムカフェ)	D	8,501
		ご来賓飲料費	C	934
		事務用品等雑費(封筒/ストラップ/差入れなど)	C	10,147
		ATM利用手数料	D	660
運営費	248,551	韓国事務所職員招へい補助費	A	197,774
		国内職員交通費(対面研修/出張)	D	50,777
合計	1,004,914			

備 考
・不足が生じた場合には定款第19条2項に準ずる。

収支差額: 0